

□【豆谷（まめだに）大橋の施工報告】に対して

Q1) 複数の架設工法で架設するにあたり設計・施工で留意した点は何か？  
また越冬にあたり構造安定性以外で実施した対策はあるか？

回答) 構造部位ごとに異なる架設工法を採用しましたので、それぞれ架設工法に対する課題に留意して対策を講じたのは、発表させて頂いたとおりです。

しかしながら、架設全般で留意した点として、アーチ閉合時の形状管理が挙げられます。下部アーチと補剛桁の閉合、上部アーチと補剛桁の閉合、いずれもトラベラークレーンが形状管理の弊害となりましたので、骨組みモデルによる構造解析によって、アーチ閉合時のトラベラークレーンの控え位置や補剛桁ベント位置におけるジャッキ操作要領を導きだし、施工に反映しました。

また、越冬にあたり構造安定性以外で実施した対策として、補剛桁上の積雪防止対策が挙げられます。想定としてはあり得ないかも知れませんが、架橋地点における最大積雪深が送り出し架設を終えた補剛桁に積もった場合、一部のベント基礎が許容を超過することが判明しました。そこで、ベント反力を軽減させるため、ある一定区間に積雪防止用の屋根材を設置して越冬しました（写真）。



写真 送り出し架設後の越冬状況（冬期休工期間の様子）（ppt\_17 頁掲載写真）